

財務分析

- **財務諸表**を読み解くことで、分析対象企業がどのような経営状態にあるのか？ 理解できるようになる

▶ 経営状態が良化しているのか、悪化しているのか、問題の程度は？ など、状況把握に用いる

▶ 他社との比較によって、強み・弱みを把握することができる

- 目指す数値・指標を定める → 経営意思決定に活用する

主な財務分析 項目

1. 成長性分析
2. 収益性分析
3. 効率性分析
4. 安全性分析
5. 総合分析

収益性分析とは？

分析することで、会社の利益を生み出すことができる力を測定できる。

売上総利益率（粗利率）、売上高 営業利益率、売上高 経常利益率、
売上高 当期純利益率などがある。

これらの指標が高い = 少ない費用で高い売り上げを実現している、ということと言える。

ただし、これらの指標は損益計算書しか分析に用いていないため、より総合的な良し悪しを見るには、貸借対照表の数値項目も含めた分析（総資本経常利益率など）を行うことが望ましい。

◆収益性分析

分析内容	計算式
①売上総利益率（粗利率）（％）	売上総利益 ÷ 売上高 製品価値・ブランド力等を背景に高い売価を維持する、または原価を抑えることで良化
②売上高 営業利益率（％）	営業利益 ÷ 売上高 本業（営業活動）の利益率を示す指標
③売上高 経常利益率（％）	経常利益 ÷ 売上高 本業のほか、事業を支える財務活動を含めた利益率を示す指標
④売上高 当期純利益率（％）	当期純利益 ÷ 売上高 最終純損益の利益率を示す指標

▶ 分析対象企業の指標だけでなく、「業界全体の傾向」や「競合との差」などと比較ができると、より多面的に状況を掴める

収益性分析の計算について
詳細は、エクセル資料を参照ください

◆収益性分析

分析内容	計算式
①売上総利益率（粗利率）（％）	売上総利益 ÷ 売上高 製品価値・ブランド力等を背景に高い売価を維持する、または原価を抑えることで良化
②売上高 営業利益率（％）	営業利益 ÷ 売上高 本業（営業活動）の利益率を示す指標
③売上高 経常利益率（％）	経常利益 ÷ 売上高 本業のほか、事業を支える財務活動を含めた利益率を示す指標
④売上高 当期純利益率（％）	当期純利益 ÷ 売上高 最終純損益の利益率を示す指標

●計算フォーム

↓ 枠内 青い色付き部分に数値を入れてください

分析項目	直近期	その1年前	
売上高	89,765千円	62,582千円	本業の収益・費用
売上原価	64,290千円	45,725千円	
売上総利益	25,475千円	16,857千円	
① 売上総利益率	28.4%	26.9%	
人件費	8,945千円	4,521千円	
地代・家賃	3,500千円	2,540千円	
荷作運送費	3,521千円	1,578千円	
通信費 + その他	2,779千円	1,485千円	
販売費及び一般管理費	18,745千円	10,124千円	
売上高 販管費比率	20.9%	16.2%	
営業利益	6,730千円	6,733千円	本業外（主に財務活動）による収益・費用
② 売上高 営業利益率	7.5%	10.8%	
営業外収益（雑収入など）	1,206千円	23千円	
営業外費用（支払い利息など）	685千円	541千円	臨時的な活動による収益・費用
経常利益	7,251千円	6,215千円	
③ 売上高 経常利益率	8.1%	9.9%	
特別利益	0千円	0千円	臨時的な活動による収益・費用
特別損失	0千円	0千円	
税引前当期純利益	7,251千円	6,215千円	
法人税等	2,538千円	2,175千円	臨時的な活動による収益・費用
法人税率	35.0%	35.0%	
税引き後当期純利益	4,713千円	4,040千円	
④ 売上高 当期純利益率	5.3%	6.5%	

それぞれ、主な増減の原因を把握し、それに対する打ち手を考えることが肝要

●考え方の例

売上総利益率の改善要因は何か？ 引き続き維持・向上することは可能か？ そのための打ち手は？

同業他社と比較して、自社の収益性は高いのか低いのか？ この状況を踏まえてどのように改善を図るか？

営業利益率の悪化要因は何か？ 販管費が増えた割に売上高を増やすことができなかったからなのか？

引き続きこの傾向は続くのか？ 来期の対策は？

直近期に発生した営業外収益は、一時的なものか？ 来期の予算にも組み込むべきか？